

景観行政の推進に関する会議

広域景観づくりについて

北海道 建設部 まちづくり局 都市計画課

基本計画・景観グループ

主査(景観)

北海道の景観の魅力

雄大なスケール

連続する自然、田園



日本、アジアにおける固有の価値

広域景観とは？

次のような条件を備えた
複数市町村にまたがる景観のことです。



1

気候・風土に一体性があり、それらを反映した景観の様相が共通している。



2

山並みや河川など地形の大きな骨格を共有し、景観構成要素の共通性を有している。



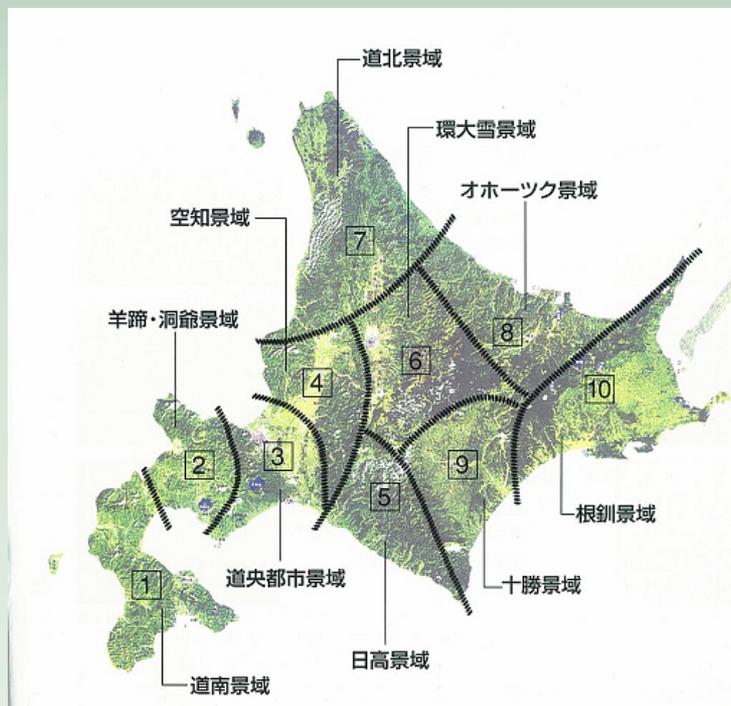
3

歴史・文化などによって、建物や環境などの一体性・共通性がある。

広域景観づくりの歩み

美しい北の国のグランドデザイン(H11年3月)

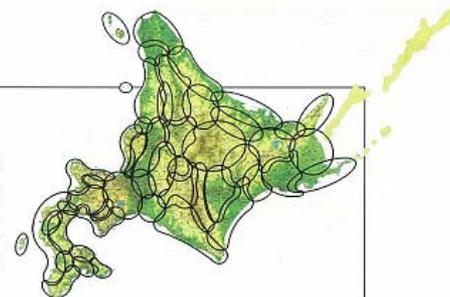
「景域」における景観づくり



景域ごとの景観特性を整理 (50の景観ゾーン)

50の景観ゾーン

10の景域を、さらにミクロな視点で見ると50の景観ゾーン(小景域)に区分でき、それが景域の基礎となっていることが分かります。これらは景域の景観特性を把握する上で、有効な指標となります。



道の指定を受けるメリット

- ・振興局が仲介役となることで、市町村間、分野間、行政と民間など**多様な関係の連携を推進**します。

- ・様々な手続きを経て知事の指定を受けることから、地域をはじめ、多くの人に**幅広く認知**されます。

- ・複数市町村と道による目標の共有化により、**効果的な施策が実施**されます。

- ・協議会組織の**継続性が担保**されます。

羊蹄山麓取組の背景

- 外国資本などによる羊蹄山麓地域の開発が活発化
- 平成16年6月 景観法公布



世界から人々が訪れる観光地であり続けるため
羊蹄山麓地域の景観を守り、さらに魅力ある
地域にしていく広域景観づくりの必要性

広域景観づくりの意義(羊蹄山麓の場合)

地域の
イメージアップ

地域一帯の
「回遊性」を強化

地域ブランド
の向上

生活環境の
レベルアップ

「羊蹄山」(景観資源)
を共有シンボル

人材育成の
強化

地域情報発信
信力の強化

幅広い分野での
連携・役割分担

規制・
ルールづくり

羊蹄山麓広域景観づくり推進協議会組織

シーニック
バイウェイ

NPO
ニセコ羊蹄
再発見の会

NPO
しりべし
リバーネット

後志フラワー
マスター
連絡協議会

各団体の取組と連携
各種部会 (幹事会 + 各団体代表など)

景観法
検討部会

案内標識
検討部会

羊蹄の日制定及
び活動検討部会

水辺景観づくり
検討部会

幹事会
(7町村課長 + 後志総合振興局建設指導課)

協議会 (7町村長)

地域指定後の取組(羊蹄山麓地域)

H18年度

景観法検討部会

- ・地域内の届出対象規模
- ・景観地区について

H19年度

景観法検討部会

- ・道の景観計画について
- ・主要な展望地について

景観フォーラム

- ・色彩、景観意匠について

ニセコ倶知安
リゾートフォーラム

- ・ニセコリゾートの広域連携として目指すべき姿

H20年度

景観法検討部会

- ・届出制度説明会

案内標識検討部会

- ・広告サインワークショップ

景観フォーラム

- ・ランドスケープとリゾート

地域指定後の取組(羊蹄山麓地域)

H21年度

案内標識検討部会



【後志景観広告ガイドラインの策定】

ワークショップにより、羊蹄らしさを尊重し、周辺景観と調和した素材、色、デザインのサインについて検討。ガイドラインとして成果をまとめる。

H22年度

案内標識検討部会

- ・景観広告ガイドラインの普及促進
- ・景観広告セミナー・イベント開催
- ・推進体制づくりをサポート